

社会福祉法人 本郷の森 平成 29 年度 事業報告書

『サポートセンターいちょう』(指定特定相談支援)

1.活動状況

「サービス等利用計画」作成を開始して、5 年が経過した。H がほぼ専従で計画相談に携わり、I がサポートスタッフとして 2 名の体制で運営している。そのため作成人数が 77 名になり、計画作成・モニタリング(計画の振り返り)それに伴っての面談・書類作成、危機介入など仕事量が増えたが、ある程度の一般相談にも応えながら活動している。

他の区内事業所では積極的に新規を受けられない状況もあり、ヘルパー・就労移行を利用する方の計画依頼が事業所や関係機関から多数あった。そのため、当法人のサービスを利用していない方の計画が新規は半数で増えている。また、計画作成後の関係機関(保健師・ヘルパーなど)とのやりとりも増え、他の事業所を知ることができ、他の方を紹介するなど支援のネットワークが更に濃くなる 1 年であった。I のサポートもあり、モニタリングが 8 割強予定通りに実施できたことも大きな成果ととらえている。

2.作成登録状況

(1)利用登録者数

・登録者数:77 名(男性:54 名 女性:23 名) 契約終了:6 名

・文京区:66 名

北区:3 名 江戸川区:3→2 名 葛飾区:1 名 豊島区:1 名 世田谷区:1 名

大田区:1 名 西東京市:1 名 川崎市:1 名

・銀杏企画 I :22 名 II :14 名 III :8 名 移行:5 名 その他:28 名

(2)新規登録者数

・新規登録:21 名 内当法人の事業所利用 10 名

とくに新規でヘルパー・就労移行を利用する方の計画依頼が多かった。

文京区からの依頼だけでなく、事業所からの依頼が多数を占めている。

(3)利用している福祉サービス詳細

サービス内容	人数(法人内)
B 型事業所	49(44)
A 型事業所	1
就労移行事業所(5 か所)	10(5)
地域定着支援(2 か所)	2
グループホーム(3 か所)	4(2)
居宅介護(6 か所)	25(15)
通院介助(2 か所)	2(1)
地域移行支援	1

※併用しているケースあり

※訪問看護導入ケースは 8 名

(4)契約終了者詳細

就労や退院先が決まった 2 名、介護保険に移行した 1 名、サービス継続の意向がなかった 1 名がサービスを終了、2 名が中断で合計 6 名が契約を終了している。内 1 名は退院後導入予定である。

3. 各月の作成数や動き

平成 29 年度から二人体制になり、動きも前年度より増えている。特にモニタリングをほぼ実施予定月に出来るようになり、事業所との情報交換や利用者の状態をよりタイムリーにつかむことが出来た。面談・訪問では、計画・モニタリング以外でも調子が悪いときなどに緊急で行ったものも含めてカウントしている。同行では、通院同行、通所同行、引越しサポートなど多岐にわたった。

(人)

H29 年度	計画	モニタ	合計	面談・訪問	ケア会議	同行
4 月	7	11	18	42	6	3
5 月	4	11	15	45	6	7
6 月	2	13	15	48	3	6
7 月	5	9	14	39	3	7
8 月	6	6	12	32	0	4
9 月	7	9	16	44	4	7
10 月	0	10	10	37	3	3
11 月	5	6	11	35	0	5
12 月	9	13	22	45	4	9
1 月	10	3	13	27	2	3
2 月	13	7	20	44	2	6
3 月	7	13	20	38	2	4
合計	75	111	186	476	35	64

※H26 年度 計画 32 件 モニ 20 件 H27 年度 計画 50 件 モニ 43 件 H28 年度 計画 60 件 モニ 52 件

4. 計画相談に伴う会議・研修

(1) 会議

昨年に引き続き「自立支援協議会」・「相談支援専門部会」に参加している。特に相談支援専門部会は、サービスのみで地域を支えることの限界、地域住民が参画できる仕組みの提案等を意見交換している。

文京区では事業所・相談支援専門員が不足している。そのため、セルフプランになっている利用者が多くみられる。そのことについて「相談支援事業所連絡会」で取り上げ検討していた。

会議名	日程
文京区障害者地域自立支援協議会(親会)	H29.5/22 9/19 H30.3/30
自立支援協議会 相談支援専門部会	H29.6/7 10/10 H30.1/30
相談支援専門部会 定例会議	H29.7/12 9/27 12/15
相談支援事業所連絡会 ※奇数月は事業所のみ 偶数月は行政の方も参加して会議を実施	H29.4/28 5/26 6/30 7/28 8/25 9/29 10/27 11/24 12/22 H30.1/26 2/23 3/23

(2) 研修

近隣区も計画相談を担う人材が不足していることから、荒川区の事業所からのお誘いがあり、3 区合同の研修に企画から参加し、①計画相談の重要性・計画作成(2 日間) ②医療的ケアの必要な方の計画相談 ③支援者のスキルアップ研修を実施。近隣区の事業所とのネットワークを構築することができた。

昨年度の相談支援専門部会での地域で支え合うための仕組みを模索し、文京区で活かすための研究会を東洋大学のゼミで取り上げてもらい課題・考察・研究を行い、「シェアハウスを利用した地域住民の参画」を協議会で提案・報告している。

研修名	日程
地域生活の展開を考える研修会 - 自立生活援助の活用	H29.8/19
3区(文京・荒川・北)合同研修	H29.10/17 11/6 H30.1/22 2/5
ソーシャルワーク実践研修 in 東洋大学	H29.6/15 7/13 総括 H30.1/18

5.今年度の経過と来年度にむけて

文京区としては、計画作成できる人材不足からセルフプランでサービス利用をしている状況が続いている。そんな中で計画作成の依頼が文京区や他の事業所からも多くあり、法人の利用者以外の作成が増えた。ヘルパー事業所や関係機関との顔の見える関係も更に深まり、他の事業所を利用したい方のサービス調整もしやすくなっている。H28年度は、外部の就労移行を利用する方の計画にも携わることが増えたが、H29年度は就労移行を2年利用しての延長の計画や就労に繋がらなかった方を他のサービスへ繋ぐ計画作成も経験している。また、就労継続支援A型・地域移行など初めてのサービス等利用計画も経験したのも徴的であった。質を維持しながら、チームで支援することを心がけていたが、2名体制になり、昨年度の水準以上の運営を出来たと捉えている。経営面では、ケア会議や面談・訪問などの支援は「計画作成・モニタリング」の報酬に含まれているため、活動の割には採算がとれない状態が続いているが、28年度より100万円ほど収入増となっている。また、当法人の利用が困難になる方や休まれていた方が復帰する、他事業所を利用していた方を銀杏企画に紹介することで、法人全体の経営を含めると少し費用対効果が上がると捉えている。

(文京区でも)計画作成できる相談支援員の数は足りず、全ての人に「サービス等利用計画」がある状況の見通しはできていないことが大きな課題になっている。そのため、現在ではできるだけ断らずに受け入れる体制でいる。H30・31年で基本報酬が減算、ケア会議や事業所訪問によるアセスメントに加算がつくなど、報酬体系が大きく変わるので、今後の経過などを精査していきたい。